

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2020[R2]年 4月 1日(水)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 29

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



第14回朝倉市人権作品コンクール ポスター部門
【小学1/2年の部】最優秀賞：蛭城小1年(羽野あんずさん)

“未来を担う子ども
からのメッセージ!!”

皆さんは、この作品
から、どんなことを感じ
られたでしょうか。…

悲しそうな表情の子の
♡に友だちが気付き、
～つながり合って…。

《を》《つ》《な》《ご》《う》に
込められた“豊かな人
権感覚が、満ち溢れる
まち!!”を、3市町村で
連携し、一緒に築いて
いこうと去年の12月、

朝倉地区では、みんなの人権が尊重される社会!!…をめざして

「部落差別をはじめ あらゆる差別の解消を推進し
人権を擁護する条例」を施行しました。

施行日



東峰村(12日)



筑前町(13日)



朝倉市(20日)

◆ この条例の3つのポイント!!

- 1) 部落差別*をはじめ あらゆる差別*が解消され、「全ての人の人権が尊重されるまちづくり」の実現を目的としています。
- 2) 朝倉地区(東峰村・筑前町・朝倉市)の各行政及び住民、事業者等が連携し、あらゆる差別の解消に努めます。
- 3) 必要な相談体制の充実や、あらゆる機会に教育・啓発活動を行い、人権擁護の社会づくりに努めます。

◆ 部落差別※(同和問題)とは…？

被差別部落(同和地区)の出身であることなどを理由に行われる差別。日本社会の歴史の中で形成された身分制度のもと、経済的・社会的・文化的…に厳しい状況におかれ、今もなお、日常生活の中で基本的人権を侵害されるなど、日本固有の重大な人権問題のことです。



◆ あらゆる差別※とは…？

部落差別を含む、全ての人権問題のことで、女性・子ども・高齢者・障がいのある人・外国人・性的少数者・HIV患者やハンセン病患者等の人々が抱えている問題等があります。また、近年、著しい情報化の進展に伴い、インターネット等による様々な人権侵害の問題も数多く起こっています。

こうした差別は、当事者に原因があるのではなく、**社会全体で解消していかなければならない問題**です。

◆ 私たち《行政・住民・事業者等》に 求められていることは…？

市町村(行政)

国・県・各種団体と連携し、人権侵害の実態把握とその行為者や関係者に対する研修等を実施し、再発防止に努める。
(第2条:市町村の責務等)



市町村の住民

地域社会の一員として、家庭・学校・地域・職場など、社会のあらゆる分野において、不当な差別の解消に努める。
(第3条:住民の責務)



事業者など…

事業活動を行うに当たっては、基本的人権を尊重し、不当な差別の解消に努める。
(第4条:事業者等の責務)



◆ この「条例」の、基盤にある理念は…？

◇『日本国憲法』⇒全て国民は、**基本的人権**の享有【=人が生まれながらにもっていること】を**保障**され、**法の下に平等**であること。

◇ 部落差別の解消の推進に関する法律や、差別の解消を目的とした**法令**⇒全て人間はみんな、**かけがえのない生命**をもっていること。

次世代につなげよう!! 差別や偏見のない社会を…!!

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2020(R2)年5月11日(月)

みんなの“人権”が尊重される
「まちづくり」への《懸け橋》

No. 30

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



『新型コロナウイルス感染症に関する人権の配慮について』

インターネット上やSNS等で感染者や関係者に対する誹謗中傷や心ない書き込み等が広がっていることを踏まえ、不当な差別や偏見、いじめ等は、決して許されるものではないこと、不確かな情報等に惑わされることなくお互いを思いやり、冷静に行動していただくことなどをお願いしています。(ホームページや有線放送でも呼びかけています。)

《感染拡大が止まらず、世界中で猛威をふるう新型コロナウイルス!!》

病気そのものの恐ろしさだけではなく、情報化社会にあって、人権を著しく侵害する事態が広がっています。また、新型コロナウイルス感染症に係る情報等の中には『不確かな情報』や『事実とは異なる情報』などもみられています。

連日、報道される中で、「**病気そのものより怖い 心ないうわさ!!**」という新聞記事が掲載されました。医療の現場で、今まさに踏ん張っておられる医療従事者の子どもさんが、保育園への登園を拒まれたり、その家族が職場で嫌がらせを受けたりするなど、「**心が折れそう…**」と悲痛な声が上がっているそうです。今、こうした事態が起きていること、あなたはどう思われますか？

“医療従事者の子、保育園への登園を拒まれる…!!..”

～ **新型コロナウイルスの「3つの顔」**を考える ～

ウイルス感染の恐さ(怖さ)には、**3つの顔(側面)**があるとされています。

- ① 肺炎や呼吸困難など重篤化に至る「**病気自体(そのもの)の恐さ**」
- ② よく分からない新たなウイルス感染症への「**不安、不安、不安、怖さ**」
- ③ 感染者やその家族などの人権が著しく侵害される「**予断と偏見、差別**」

終息の見通しが見えない中で、**病気が不安を呼び、不安がさらに不安を招いて差別を生み、いわれのない差別が みんなの幸せな生活を脅かす、**「**負(マイナス)の連鎖**」に、つながってきているのではないのでしょうか。

4/22（水）西日本新聞朝刊の一面には、以下の記事が掲載されていました。

～ 従業員感染 公表悩む ～

従業員の新型コロナウイルス感染が確認された際、自主的に名乗り出る企業が相次いでいるが、感染防止の観点で正しい情報を伝えたため公表後に誹謗中傷ひぼうちゆうしやうを受けたケースもある。識者は「感染拡大を防ぎつつ、患者や家族等のプライバシーや企業の利益をどう守るのか、判断は難しい」と指摘する。

「利用客の不安を解消し感染拡大を避ける上で、公表自体は正しかったが、その後、営業所での消毒の様子が報道されると、作業に当たった従業員の子が通う幼稚園から、『しばらく登園を控えてほしい』と求められるなど、感染していない従業員の家族まで偏見にさらされてしまうという現実…。」

不安に振り回されている自分が気付かないうちに、いつの間にか周りの人を傷つけたり、不安を助長したりすることになっていないのか、自ら振り返ってみることは、自分自身の人権を大切にすることにもつながります。

《感染症を乗り越えるため、今、私たち一人一人ができる工夫は…？》

- i) 私たち一人一人が感染症の恐さを自覚して、手洗いや咳エチケット等の**衛生行動を徹底し、「三密」→「密閉」「密集」「密接」を避けるように努めること!!**
- ii) つのる“不安”から、デマや間違った情報などに惑わされないためにも、**ウイルスのことや今すべきこと、「自分だったら…」と他の人の人権についても正しく理解して、日々の行動につなげられるように努めること!!** など…

困難な状況の中で、日々、かけがえのない生命（いのち）と向き合っている医療従事者や関係者等にエールを贈る取組が、世界各地で湧き起こっています。

福岡市では“**#Friday Ovation:医療・介護の関係者に感謝の拍手を**”という取組が呼びかけられ、金曜日正午のチャイムが鳴ると、およそ3分間にわたって拍手を贈り続け、「ありがとう」と書かれた横断幕を掲げる職員も…。

スイスとイタリアの国境近くに位置するマッターホルンでは『希望』を表す光のメッセージが、約4 Km離れた所から毎晩映し出されているそうです…

私たちが今できることは？…を自ら発見し、考え、行動することで、みんなが一つになって、負の連鎖を断ち切り、人が人として尊重される
《→ **人権を大切に考える…**》確かな“歩み”をつなげていきましょう!!

しゅじんこう いのち
～みんな一人一人が主人公…かけがえのない生命～

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2020(R2)年7月10日(金)

みんなの“人権”が尊重される
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 31

発行:
人権啓発指導員
【大楠 茂美】

2020(令和2)6月24日(水) ○○新聞

沖縄戦75年 教訓次世代に

大粒の雨は、75年前の沖縄戦で失った最愛の人を悼む涙のようだった。『平和の礎』は、戦争の愚かさ、平和の貴さを浮き彫りにする象徴だった。刻銘者2万5933人漏らさない。未来へとつなぐ決意が…！

平和希求の心発信

今から75年前の6月19～20日は、千人余りの人々が死亡・行方不明になった福岡大空襲!! 6月23日は、3か月に及んだ沖縄戦での犠牲者約24万人(住民9万4千人:県民の4人に1人)を追悼する「慰霊の日」です。戦局が厳しくなるにつれ、特別攻撃で3千9百人余りが…、8月6日に広島、8月9日に長崎への原子爆弾投下で21万4千人余りの『かけがえのない尊い生命』が…、奪われました。

～人が人ではなくなる戦争。奪われた『生命』!! そして、『平和』!!～

筆舌に尽くし難い、75年前の出来事。自国の人々が受けた悲しみや辛さとともに、他国の人々の苦しみや悲しみを受容することが、お互いの人権に向き合うことではないでしょうか…?



今、築かれている平和社会の陰には、戦後のシベリア抑留や朝鮮戦争等も含め、幾多の戦禍のことを忘れてはならないと思います。そして、戦後75年を迎える今日、誰もがかけがえのない生命であることを、自分のこととして振り返ることは、大きな意味があるのだと思います。



5/4～6/19、NHKラジオ(AM9:45～10:00)で『二十四の瞳』の朗読(全35話)があり、‘聴き逃しサービス’のおかげで、「大石先生や12人の子どもたち」のことを思い出しました。この時代は、治安維持法や普通選挙法が定められ⇒満州事変⇒日本が国際連盟を脱退⇒太平洋戦争へ突入…!! 「生きてもどってくるのよ」とは決して言えない時代の中で、翻弄されながらも、たくましく生きる人生を歩み続ける子どもたちの姿を通して、作家:壺井 栄さんは『平和』の大切さや『かけがえのない生命』の尊さについて、私たちに伝えていきます…

戦後75年を迎えるこの時期に、久しぶりに『二十四の瞳』の朗読を聴けたことは、とても意義深いことでした。…

二十四の瞳、つまり十二人の子どもたち。この十二という数は、栄さんが育った家の子どもたちの人数でした。…



小豆島:映画村より⇒『岬の分教場』と『銅像』

栄さんの両親である岩井藤吉夫妻は、十人の兄弟姉妹の他に、二人の子をひきとって「うちで育てば、うちの子」と分け隔てなくかわいがったそうです。(短編童話「まつりご」は、その父親をモデルにしていました。)

栄さんはこの両親を尊敬し、その愛の大きさをたたえる意味もあって「十二人」、つまり『二十四の瞳』という作品を書き上げました。そして、本の「あとがき」には、栄さんの想いが次のように書かれていました。…

「私は、戦争は、人類に不幸しかもたらさない、ということ
を、くり返し強調せずにはいられなかったのです!!」と…。

朗読を聞き始めた頃、下記特集が新聞に掲載されたこともあり、両親が体験した戦後75年を通して、自らの生命が今につながっている意味や『平和』『かけがえのない生命』について振り返る機会になりました。

～【〇〇新聞特集】戦後75年企画:2020(令和2)年5月30日(土)～

戦争体験者の声を「言葉」で伝えます 『戦後75年:言葉を刻む⑩』



～ 今でも 赤く熟れたグミの木を見ると…

心が 痛みます ～ (福岡県久山町、女性)

「花火のシュルシュルという音を聞いても思い出す、あの焼夷弾の降ってくる音」…。1945年6月19日夜、空襲警報のサイレンと早鐘、焼夷弾が落ちてくる音で目が覚めた。…水にぬらした布団をかぶり、家族や近所の人たちと山中に逃げた。最後尾にいた友人の姉が直撃を受けて亡くなったと聞き、庭先のグミの枝を折って供えた。…

『福岡史』によると、福岡大空襲の死者は902人、負傷者1078人、行方不明者は244人に上ったそうです。(⇒この『言葉』は、戦後70年に当たり、82歳の時に本紙に寄せられた手紙から掲載しました。)

【朝倉地区人権啓発情報センターだより】2020(令和2)年8月26日(水)

みんなの“人権”が尊重される
か 橋
はし
『まちづくり』への《懸け橋》

No. 32

発行：
人権啓発指導員
【大楠 茂美】



朝倉地域生涯学習センター玄関入口に咲いたひまわり



プランター栽培のひまわり

昨年度から『人権フォトコンテスト』に代えて、人権尊重の輪をさらに広げたいと、就学前の子どもさんを対象に4年次計画で『ニコニコひろがる! ひまわりのはな運動』に取り組んでいます。



センター西側花壇に
ひまわりの花が…!!
太陽に向かって伸び
ひまわり
る向日葵のように、
『人権が尊重される
社会』をめざして…!!

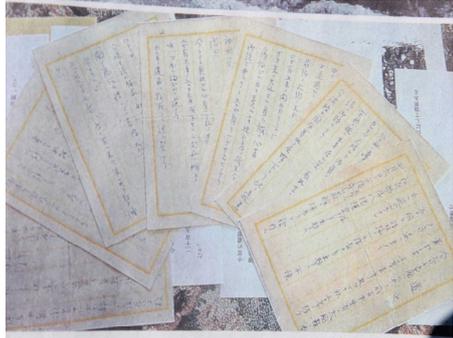
今年度は、9つの幼稚園・保育所(園)にて、栽培活動を実施中です。また、朝倉地区人権啓発情報センターでも取組んでいます。(写真参照)

今年はコロナ禍に加え、3年続きの『大雨』や『危険な暑さ』の影響で栽培活動が難しく、各施設の方々には、ご苦勞をおかけしております。

そうした難しさも含め、人権の花=ひまわりを栽培する各過程(種まき、水やり、草取り、添木)の取組みが、一本一本の生命を大切にす^{いのち}る心(大きく育ててほしい、花を咲かせてほしい…)を育てていくのでしょ^う。

特攻前夜の告白

「今、淡暗き国分基地の電燈の下にて、この遺書を認む。」…鹿児島県国分基地から出撃した、福岡県大牟田市出身の末藤肇少尉（当時24歳）は、特別攻撃隊小隊長として、前夜の心境を、8枚の便箋に綴られていました。…



- 「書字乱雑になりたるも、吾の心の動揺にあらず。心は、冷静にして沈着たり。父のふだんの訓えのとおり、今、冷静たり。…」
- 「四月六日の午後三時から五時の間に、敵艦に体当たりを敢行す。驕れる敵は、遂に我が沖縄に、その魔の手を指しのべたり。…」
- 「四月五日午前十時頃、大牟田市上空を十二機編隊が通過せしを見られたれば、小官（私）の最初にして最後の大空の飛行姿なり。」
- そして最後に、「今、咲き誇る 桜花のごとく 散りゆかん 『国のため 何か惜しまん若桜 散って甲斐ある 命なりせば』」と…。

★ この「告白」には、故郷や家族への想いだけでなく、作戦内容や秘密の行動（遠回りのコース変更）などが詳しく書かれており、「きっと検閲を免れるようにして届けられたのでしょ」と記されていました。

★ 訓練を受けた大分県宇佐海軍航空隊から国分基地をめざす前に、故郷の大牟田市上空通過を知らせていることから、自らの最期に際し、故郷や親族等への想いについて、「深く…」考えさせられます。

★ この手紙を父親から譲り受けた弟さん（現在77歳）は、戦後75年の節目に『戦争の悲惨さを、忘れないでほしい』と公表されました。～生前、父親が「桜を見ると、肇を思い出す」と庭の桜の木を切られたそうです。今、「父の気持ちが身にしみる」と回想されていました。

戦後75年。『戦争は最大の人権侵害!!』…こうした時代があったことを正しく知り、そこから何を学び、今後はどう生かすか（つなぐか）が、今、私たち一人一人に求められている、大きな課題ではないでしょうか。…

私たちの身近な生活の中から、豊かな人権感覚を育む『気づき・考え・行動』を積み重ねながら、人権尊重の「根っこ」を広げる取組を…!!